



ADHD等 指導者養成講座

今年度の指導者養成講座は、小学校入学までと保幼少との連携に焦点を当てて、その時期に重要な支援のあり方について学んでいきたいと思えます。最近では発達障害と愛着障害の見立ての難しさから、支援の現場では混乱があります。頑張っているのに支援がうまくいかないと悩まれる支援者の方や、子育てがうまくいかないことで悩まれる保護者の方に向けた子育てのヒントをお伝えしていただきます。

専門家の講義の後は、小グループでの参加者のグループディスカッションで異なる立場の方と意見交換を深めていただければと思います。二日間出席された方には修了証を差し上げます。

講座1 アタッチメントの理解と支援

10月5日(土) 13:30~16:15

講師：遠藤利彦先生

東京大学大学院教育学研究科・教授
同附属発達保育実践政策学センター長

学童期前の支援で最も重要な事は、虐待の防止と云えるでしょう。親子を支援するためにこの時期大切なアタッチメント愛着形成や安全基地に関してご説明いただきます。愛着形成は、思春期以降の成長に大きく影響を与えていると言われています。虐待するつもりはなくても虐待になりがちな親支援の視点からも参考になる内容です。

講座2 発達障害と感覚統合

10月5日(土) 16:30~19:15

講師：石井孝弘先生

帝京科学大学医療科学部 教授

感覚統合の視点でのスクリーニング方法、具体的な支援方法を医療、教育、福祉そして家庭で応用できるようにお話しいただく予定です。お子さんの年齢や特性、その目標によっても変わってくると思われる支援に関して障害志向型アプローチと課題志向型アプローチを中心に解説していただきます。実際のサポートは、VTRでご紹介いただきます。

振り返りのグループワーク
19:30~20:30

講座3 発達障害のある 幼児の見立てと支援

10月6日(日) 9:15~12:00

講師：小枝 達也先生

国立成育医療研究センター副院長
こころの診療部総務部長

発達障害があるお子さんの5歳児検診や就学前検診でのチェックポイントや、未就学の子どもの日常生活の行動観察で、どんなことを見立てのポイントになり、どんな配慮が必要なのか特に、ADHDとLDの視点から話いただきます。鳥取大学附属小学校の校長先生も兼務されていたご経験から、保幼小と医療機関の連携で重要なことについてもご提案いただきます。

講座3 感覚過敏と睡眠に 困難を抱える子どもの支援

10月6日(日) 13:15~15:45

講師：高橋智先生(東京学芸大学)

総合教育科学系特別支援科学講座教授

乳幼児期のアタッチメントの形成は、発達障害があると難しい傾向がありますが、その理由に感覚過敏があります。どんな種類の感覚過敏があるのか、具体的にどう支援したらいいのか、睡眠の問題とともにお話しいただきます。特性の情報の共有と言う視点から保幼小の連携に関する支援ポイントもご提案いただきます。

振り返りのグループワーク
16:00~17:00

★1日のみの参加もご相談ください

場所：国立オリンピック記念青少年センター(渋谷区代々木神園町3-1)

小田急線参宮橋駅徒歩7分、東京メトロ千代田線代々木公園駅徒歩10分

対象：ADHDを中心した発達障害を正しく理解し対応を学びたい支援者および保護者

定員：50名 託児：なし 持ち物：筆記用具・昼食

参加費(2日分)：一般20,000円 準会員17,000円 正会員/学生10,000円 全課程修了者に「修了証」を発行します。

詳細・お申込：HPで申込みの後、一週間以内に参加費をお振込みください